



2024年度

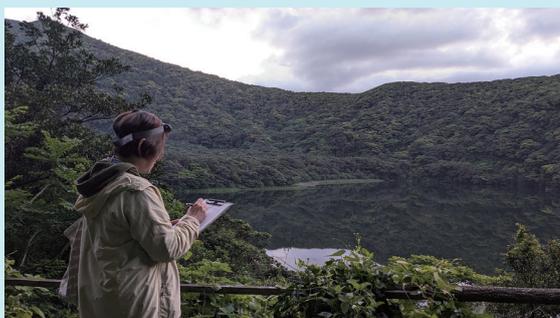
アカコッコ保護事業報告書

伊豆諸島とトカラ列島にだけ生息する日本固有種のアカコッコ（絶滅危惧ⅠB類・環境省）。日本野鳥の会は個体数の増加を目的に、2012年からアカコッコ保護事業として、重要な繁殖地である東京都三宅島を中心に調査や環境整備、普及教育活動などを行なっています。

アカコッコの個体数推定を実施

2023年度に続き、今年度も島民の方と協力して25コースで調査を実施しました。延べ40人の調査員が分担し、5月10、11、12日の3日間で全コースを調査することができました。調査結果から推定した三宅島の推定個体数は約9,600羽となりました。

この数年アカコッコ館などがある島の南側でアカコッコが観察しにくいという感想を耳にしていました。そこで、島を南北に分け、それぞれに位置するコースの1コース当たりの観察個体数を算出し、調査年で比較をしてみました。全ての環境区分の平均値では、北部に設置したコースで観察できる個体数が多かったことがわかりましたが、南部でも徐々に個体数が回復し、今年度は北部との差は少なくなってきていました（図1）。また、明るい樹林コースでは北部よりも南部で多くみられた年が多かったことがわかりました（図2）。



日が昇った後の復路の調査風景



図1. 全ての環境区分の調査コースを南北で分けた場合の1コース当たりの観察個体数

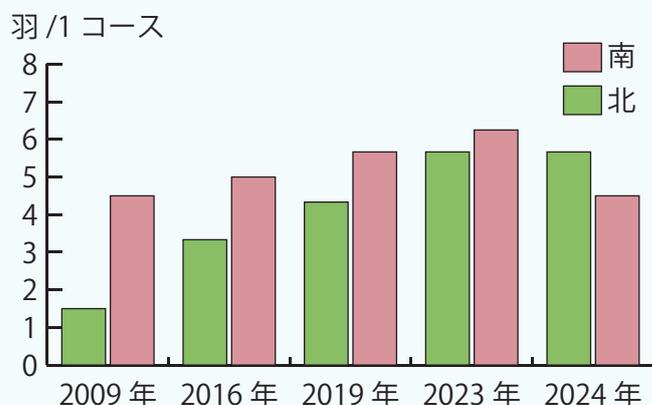


図2. 明るい樹林の調査コースを南北で分けた場合の1コース当たりの観察個体数

アカコッコの生息環境の整備



3月22日、島内外から8名の方が参加し、アカコッコ館周辺の林内で、林床を覆うテイカカズラやフウトウカズラといったツタの仲間を取り除き、エサを捕りやすい環境を整備しました。

アカコッコは落ち葉の下に隠れたミミズや昆虫を探して食べます。以前行った調査では、林床が覆われた場所よりも林床が開けた場所で多くのアカコッコが確認されました。また、島に点在するアシタバ畑もアカコッコの良い採餌場所になっています。

イベントでは島内で不足しがちな水場を増やすために、木材で浅い水桶を作り、森の中に設置する活動も行いました。



ツタを引っ張って取り除き、置き場に運搬

アカコッコの利用地域を調査



7月23～26日にかけて、アカコッコ館を拠点にアカコッコに装着したGPSロガーを回収する調査を行いました。今回は2023年7月に装着したGPSロガーを2個回収することができました。これは、若いオスと若いメスに装着したもので、新たな知見が得られるのではと期待していたものでした。

回収して驚いたのは、1つはアンテナが折られており、もう1つはデータの読み込みができなくなっていたことです。一見問題なく見えた後者もよく見るとロガーの被覆が剥げて金属が露出しているところを確認できました。貴重な回収例でしたがデータが得られないという残念な結果となりました。

10月31日、11月1日には、前年度までに得られた成鳥オスのデータから複数の個体と同じ時期、近い場所を利用していたことから、利用の要件を知るために秋の利用地域の環境を確認しました。GPSのポイントが落ちていた場所には、実がたくさんなっている草木が数種類確認できました。アカコッコとの関係はまだ明らかにできていないので、引き続き調査を行っていきたいと考えています。

